

神戸市マンホール蓋高さ調整特記仕様書

令和6年4月1日現在

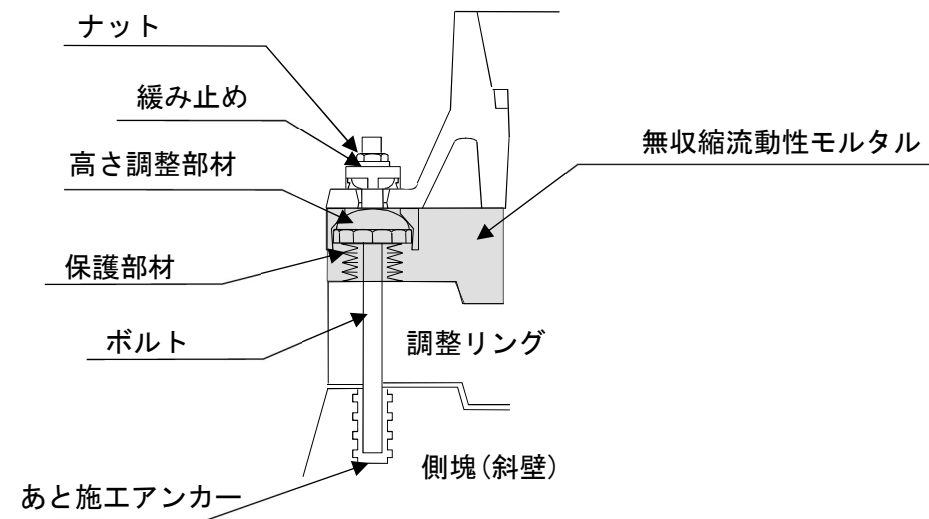
1. 適用

本特記仕様書は、マンホール天端の仕上がり高さ及び勾配を道路または敷地の表面勾配に合致するよう仕上げるための「マンホール蓋高さ調整」に適用する。

2. 構造

マンホールの蓋高さ調整は、調整リング、調整金具等により高さを調整し、枠を固定した後に調整リング（又は斜壁等）と蓋枠のすき間に無収縮流動性モルタルを充填することで行う。

「マンホール高さ調整」標準構造図



3. 使用材料の性能

使用材料の性能は以下の通りとし、「材料承諾申請書」を監督員に提出し確認を受けなければならない。

1) ボルト

蓋の呼び径	蓋1枚当りの保証荷重	備考
600	106kN以上	M16 強度区分4.6 3本/枚 (35.3kN×3=105.9kN) 以上の強度のボルトを使用すること。

2) 高さ調整部材

- (1) 枠と周辺路面との高さ調整が容易且つ正確に作業できるものであること。
- (2) 枠固定のためにナットを締め付けた際に、蓋枠の変形を防止できるものであること。

3) 無収縮流動性モルタル

- (1) 無収縮性で、モルタル硬化後も枠と調整リング（または斜壁等）間に収縮によるすき間が発生しないこと。
- (2) 高流動性で、流し込み工法により、枠と調整リング（又は斜壁等）間にすき間なく充填できること。
- (3) 超早強性で、枠据付後、短時間での交通開放が可能であること。

無収縮流動性モルタルの物性値の目安

項 目	目 安
J ₁₄ ロート流下時間 (秒)	6 ± 2
圧縮強度 (N/mm ²)	9.8 以上
収縮・膨張性	収縮しないこと

(注) 圧縮強度は温度 20℃、養生時間 1.5 時間での値

4) あと施工アンカー

- 引抜強度が固定用ボルトの保証荷重以上であること。
設置時にマンホール躯体等に損傷を与えにくいものが望ましい。

5) 保護部材

- ボルトとモルタルの固着を防止できるものであること。

6) 緩み止め

- マンホール上を通過する車両の振動などで、ナットが緩むのを防止できるものであること。

7) ナット

- ボルトと各部材の締め付けができるようなものであること。

4. 施工

1) ボルト（枠固定用）の設置

- 固定用ボルトは緩みがないようにアンカーに締付けること。

2) 枠高さの調整

- 路面高さと枠の高さの整合性は、固定用ボルト取付箇所全てに高さ調整部材を取付けて調整を行うこと。また、調整は車両及び歩行者の通行に障害を与える段差が生じないように行うこと。傾斜地の場合、枠高さが低い方で、枠とマンホール上部壁（又は調整リング）が干渉しないように高さを調整すること。

3) 枠の固定（ナットの締付け）及びボルトの切断

枠の揺動がないように、固定ボルト取付箇所全てにナットを取付け、スパナ等で緩まないように締め込み、ナット全てに緩み止めを装着すること。舗装転圧の衝撃で調整部が破損しないよう、ボルト頭部が路面高さより 50 mm以上、下の位置となるようにボルトを切断すること。

4) 型枠の装着

枠の内面及び外面に型枠を装着する。その際、枠と型枠にすき間などが生じているとモルタルが漏れるため、すき間がないように十分型枠を密着させること。

5) 無収縮流動性モルタルの充填

所定の水を計量し、水とモルタルを攪拌機などで十分混練すること。混練後、速やかにアンカー穴から高さ調整部分に流し込み、すべてのアンカー穴からモルタルが流れ出た状態となり、全体に充填されたことを確認すること。モルタルの硬化を確認後、型枠を脱型すること。

5. 施工写真

本市写真管理基準（案）のマンホール工に準ずること。